

津付だより

一般国道397号「津付道路」が開通

東日本大震災津波からの復興を加速させる復興支援道路の開通

平成26年10月26日(日)、一般国道397号「津付道路」が開通しました。

さわやかな秋晴れそして紅葉が映える中、開通に先立ち11時から、住田町、大船渡市長、陸前高田市長、関係地権者、県議会議員、県・気仙3市町の自治体関係者など約70名の出席のもと、開通式が盛大に開催されました。

式では、子飼沢橋の橋名板を揮毫いただいた世田米小学校の児童による作文発表、テープカット・くす玉開披、地元住田町の郷土芸能「大股神楽」の披露、開通記念パレードなどのセレモニーが行われました。

その後、午後3時から一般通行を開始し、開通を心待ちにされていた地元の皆様など多くの方が新しい道路の開通を喜んでいました。



《テープカット・くす玉開披》



上段：《大股神楽》

下段：《パレード状況》

復興支援道路一般国道397号津付道路開通プレイベント「道路探訪会」開催

平成26年10月13日(月・祝日)、一般国道397号津付道路・開通プレイベント「道路探訪会」を開催しました。

台風が迫る肌寒い日となりましたが59名(女性39名、男性20名)の参加をいただきました。

周辺の山々が紅葉で色づき始めた中、参加された方々は新しいトンネル・橋・道路についての説明に耳を傾けながら、約1時間をかけて津付道路約2.7kmを歩きました。

記念品の住田町産木材を使った通行手形をお渡しし、会は無事終了しました。



《10月13日(月) : 道路探訪会の様子》

○津付ダム建設事務所にセンサーアートを設置

事務所前に2体のチェンソーアートが飾られ、来庁者や通行される方々など多くの人の目を引いています。これは、津付道路開通式の開催にあたり「SUMITAチェンソーアート抽遊会(そまゆうかい)」に製作を依頼し設置したものです。幸福を呼ぶフクロウと津付地区周辺で見られるイワナのデザインをお願いしました。



《事務所前 左側がフクロウ、右側がイワナ》

一般国道397号 「津付道路」事業概要

一般国道397号は、大船渡市から住田町、奥州市を経て秋田県横手市に至る、延長約150kmの道路であり、産業振興や救急医療、地域間の交流を支える幹線道路として大きな役割を果たしているほか、災害が発生した場合に優先的に交通の確保を図る緊急輸送道路にも指定している重要な路線であり、岩手県東日本大震災津波復興計画（復興実施計画）において復興支援道路に位置付け、重点的に整備を進めています。

「津付道路」は、気仙川流域の住民を洪水被害から守るために大股川に計画された津付ダムによって水没する付替国道として整備されたものです。ダム建設は平成23年3月発災の東日本大震災津波復旧・復興による気仙川流域の治水対策を見直し、やむを得ず中止することとしましたが、震災以降『復興支援道路』として事業を継続し、平成17年度から調査設計を進め、19年度には工事に着手し、約10年の歳月を経て、住田町高屋敷地区から子飼沢地区までの約2.7kmが完成しました。

【津付道路の概要】

延長	幅員	事業費	事業期間	設計速度	最急縦断勾配
2,660m	土工区間 9.5m 構造物区間 8.0m	約69億円	平成17年度 ～平成26年度	60km/h	4%

